
一般社団法人 日本有病者歯科医療学会

第14回学術教育セミナー

プログラム・抄録集

一般社団法人 日本有病者歯科医療学会

〒115-0055 東京都北区赤羽西6-31-5 (株)学術社内

TEL : 03-5924-3621 FAX : 03-5924-4388

一般社団法人 日本有病者歯科医療学会

第14回学術教育セミナー

プログラム・抄録集

開催日 2024年10月20日(日)

開催方式 ハイブリッド方式

会場聴講 & リアルタイム配信: 2024年10月20日(日)

録画配信: 2024年10月23日(水) ~
一ヶ月配信(予定)

会場 AP 日本橋(日本橋フロント 6F)

主催 一般社団法人 日本有病者歯科医療学会

理事長 坂下 英明(我孫子聖仁会病院口腔外科センター長)

委員長 矢郷 香(国際医療福祉大学三田病院歯科口腔外科 教授)

代表世話人 山内 智博(がん・感染症センター都立駒込病院
歯科口腔外科 医長)

一般社団法人 日本有病者歯科医療学会

〒115-0055 東京都北区赤羽西6-31-5 (株)学術社内

TEL: 03-5924-3621 FAX: 03-5924-4388

一般社団法人 日本有病者歯科医療学会
第14回学術教育セミナー

【メインテーマ】

医科疾患に対して歯科医療はどのように対応していくのか？
改めて確認する医科歯科連携

PROGRAM

9:30 ~ 9:40

開会のご挨拶

理事長 坂下 英明 …(5)

学術研修委員会委員長 矢郷 香 ……(6)

代表世話人・学術研修委員会委員 山内 智博 ……(7)

総合司会：町田市民病院歯科・歯科口腔外科 部長 小笠原健文

【午前の部】

9:40 ~ 10:35

1. 「歯科治療を受ける患者さんに合併する循環器疾患の管理の実際」……………(8)

講師： 国際医療福祉大学医学部循環器内科学 教授
国際医療福祉大学三田病院心臓血管センター 教授 田村 雄一 先生
座長：国際医療福祉大学病院口腔外科 教授 岩渕 博史 先生

10:40 ~ 11:35

2. 「循環器疾患を有する患者の歯科治療上の注意事項と緊急時対応」……………(10)

講師：北海道大学大学院歯学研究院口腔病態学分野
歯科麻酔学教室 教授 城戸 幹太 先生
座長：東京女子医科大学医学部歯科口腔外科学講座 教授 岡本 俊宏 先生

【お昼休憩 11:35~12:15】

PROGRAM

[午後の部]

12:15 ~ 13:10

3. 「平時の感染症診療と感染症危機管理」 …………… (12)

講師：東京科学大学大学院医歯学総合研究科

感染症健康危機管理学分野 特任准教授 関谷 紀貴 先生

座長：がん・感染症センター都立駒込病院歯科口腔外科 医長 山内 智博 先生

13:15 ~ 14:10

4. 「口腔感染症の外科・薬物療法について～ MRONJ 治療への対応～」 …………… (14)

講師：兵庫医科大学医学部歯科口腔外科学講座 臨床教授 野口 一馬 先生

座長：鹿児島大学医歯学総合研究科顎顔面機能再建学講座

口腔顎顔面外科学分野 教授 西條 英人 先生

【休憩 14:10～14:25】

14:25 ~ 15:20

5. 「造血幹細胞移植患者さんと歯科の関わり～当院の現状をふまえて～」 …………… (16)

講師：がん・感染症センター都立駒込病院血液内科 部長 土岐 典子 先生

座長：東京慈恵会医科大学附属病院歯科口腔外科 教授 林 勝彦 先生

15:25 ~ 16:20

6. 「造血・免疫細胞療法における口腔健康管理

～移植プロトコールから口腔粘膜障害のリスクを予測し予防に活かすには～」 …………… (18)

講師：がん・感染症センター都立駒込病院看護部 主任歯科衛生士 池上由美子 先生

座長：霞ヶ浦医療センター歯科口腔外科 部長 吉田 俊一 先生

16:20 ~

閉会のご挨拶

代表世話人・学術研修委員会委員 山内 智博

受講について

この度は日本有病者歯科医療学会「第14回学術教育セミナー」をご受講いただきありがとうございます。下記、手順に従ってご受講ください。

○ ハイブリッド方式

会場聴講 & リアルタイム配信：2024 年 10 月 20 日 (日) 9:00 開場, 9:30 開講, 16:30 終了予定
録画配信：2024 年 10 月 23 日 (水) ～ 一ヶ月配信 (予定)

○ ログインパスワード 別途ご登録メールアドレスへお知らせいたします

■ ログイン・視聴方法

1. 入金確認メールに記載された URL より視聴ページのログイン画面に接続が可能です。
入金確認メール件名：「【入金確認】一般社団法人 日本有病者歯科医療学会 第13回学術教育セミナー 視聴ページのご案内」
2. 入金確認メールに記載されているログイン ID とパスワードをご入力いただき、「送信」をクリックして視聴ページへお入りください。
3. 【リアルタイム配信】 視聴ページ内にある【リアルタイム配信を受講する】ボタンより、Zoom にて WEB セミナーを受講いただけます。

【オンデマンド配信】 配信ページの各プログラムをクリックすると配信が始まります。
各プログラムは独立しておりますので個別に視聴することが可能です。
また、期間内であれば繰り返し視聴することも可能です。

■ 参加証（会場聴講用）について

会場聴講については、参加証が必要です。
ご登録のメールアドレスに、会場案内等と共に、お送りいたします。

■ 領収証について

領収書は金融機関の振込明細をもって代えさせていただきます。

■ 修了証について

修了証はリアルタイム配信の視聴時間または録画配信の視聴時間の集計を行い、発行致します。

■ ご注意

1. 配信期間以外は視聴できません。期間内に受講を終了するようにご計画ください。
2. 必ずお知らせしたパスワードでログインし、登録者以外の方がご使用にならないようご注意ください。
3. 通信環境、使用される機器の不具合等による視聴不能については責任を負いかねます。
4. 映像、講演内容、使用されている画像・図表等には著作権が存在します。無断複製、転載、改変、配布、販売を固く禁じます。
5. その他、第14回学術教育セミナー配信ページの注意事項をお読みの上ご受講ください。

ご挨拶

一般社団法人 日本有病者歯科医療学会

理事長 坂 下 英 明

(我孫子聖仁会病院口腔外科センター長)



この度、(社)日本有病者歯科医療学会は、第14回学術教育セミナーをハイブリッド開催いたします。具体的には、会場視聴とリアルタイム配信を2024年10月20日(日)に、録画配信を2024年10月23日(水)からの一ヶ月間の配信で、実施いたします。

依然として感染症対策が求められる中で、昨年に続きましてハイブリッド開催の形式となりました。やはり、学会の醍醐味は会場での聴講と質疑応答ですが、止むを得ないこととは言え、誠に残念ではあります。このため、会場での聴講は定員制(先着順)とならざるを得ませんでした。会員各員は奮ってご参加いただきたいと思います。

本学術教育セミナーのメインテーマは、「医科疾患に対して歯科医療はどのように対応していくのか? 改めて確認する医科歯科連携」といたしました。

さらに、その内容は、「歯科治療を受ける患者さんに合併する循環器疾患の管理の実際」を国際医療福祉大学医学部・田村雄一教授に、「循環器疾患を有する患者の歯科治療上の注意事項と緊急時対応」を北海道大学大学院歯学研究院・城戸幹太教授に、「平時の感染症診療と感染症危機管理」を東京医科歯科大学大学院・関谷紀貴特任准教授に、「口腔感染症の外科・薬物療法とMRONJ治療」を兵庫医科大学医学部・野口一馬臨床教授に、「造血幹細胞移植患者さんと歯科の関わり～当院の現状をふまえて～」をがん・感染症センター都立駒込病院・土岐典子血液内科部長に、「造血免疫細胞移植患者における口腔健康管理」をがん・感染症センター都立駒込病院看護部・池上由美子先生と各々の講演内容の権威者に御講演をお願いしております。

今回のメインテーマである、「医科疾患に対して歯科医療はどのように対応していくのか?」こそ、本学会の設立目的の「日常の歯科診療で全身的になんらかの配慮を必要とする基礎疾患を有した患者に対し、対応し得る医学的知識の研鑽あるいは臨床に直結した全身管理を普及させること」を、具現化する内容であると自負しております。さらに、学術教育セミナー開催に際して、関係者の熱意をおお酌み取りいただきたく存じます。

今回の学術教育セミナーの内容が、受講者のこれからの臨床の糧になることを確信しつつ、御挨拶させていただきます。

ご挨拶

一般社団法人 日本有病者歯科医療学会
学術研修委員会委員長 矢 郷 香
(国際医療福祉大学三田病院歯科口腔外科 教授)



第14回学術教育セミナーを2024年10月20日(日)に開催するにあたり、ご挨拶を申し上げます。有病者歯科医療に関してカッティングエッジな講演を賜ります講師の方々と最新情報を取得しようと勉強熱心な会員の皆様のお陰で本セミナーは大変好評で、去年は約500名の方にご参加いただきました。皆様のご期待に応えるために学術研修委員会委員一同会議を重ね、今回も第一線で活躍されている講師の先生方にご登壇いただけることになりました。新型コロナウイルス感染症は、オミクロン株から派生した変異株「KP.3」が出現しコロナ感染者が増加、新型コロナ第11波に警戒する必要がありますが、今回も人数を制限してFace to Faceでの会場参加とWebによるリアルタイムと配信期間を延長し約1か月間のオンデマンド配信方式とさせていただきます。学術教育セミナー終了後のアンケート調査で、10月、11月は学会シーズンで色々とWebセミナーがあるので配信期間を延長して欲しいとのご要望に配慮致しました。

今回は、がん・感染症センター都立駒込病院歯科口腔外科医長の山内智博先生が代表世話人で、メインテーマは、「医科疾患に対して歯科医療はどのように対応していくのか？改めて確認する医科歯科連携」です。新しい試みとして、循環器疾患、感染症、血液疾患の3つの疾患に対して、まずは医科の先生方にご講演いただき、それに関連したアンサー講演を歯科の先生方にしていたくという企画としました。

午前は、日常歯科臨床で高血圧症の患者に一番多く遭遇するかと思いますので、循環器疾患(主に高血圧症と心不全)について田村雄一先生にご講演賜り、城戸幹太先生には主な循環器疾患を有する患者の歯科治療上の注意点と偶発症発生時の対応について概説いただきます。午後は、新型コロナウイルス感染症が「第5類感染症」となり行動制限が緩和されましたが、今後、新興・再興感染症が発生する可能性もあるので、関谷紀貴先生に感染症について、野口一馬先生には、重症口腔感染症と薬剤関連顎骨壊死の対応についてご講演いただきます。最後に土岐典子先生と衛生士の池上由美子先生に造血幹細胞移植患者の対応と口腔ケアに関してご講演賜ります。

本セミナーは、事前およびリアルタイム配信時に質問をお受けし、講師の先生方にご回答いただきますので、是非ともこの機会をご活用ください。

最後に、本セミナー開催にあたり、お忙しい中、ご講演賜ります講師の先生方、多々ご尽力をいただきました山内智博先生はじめ、ご高配、ご協力を賜りました関係者各位に心から御礼申し上げます。

ご挨拶

一般社団法人 日本有病者歯科医療学会

代表世話人・学術研修委員会委員 山内 智博

(がん・感染症センター都立駒込病院歯科口腔外科 医長)



2024年10月20日(日)に第14回日本有病者歯科医療学会学術教育セミナーを開催させていただきます。代表世話人としてご挨拶させていただきます。

今回のメインテーマは「医科疾患に対して歯科医療はどのように対応していくのか？改めて確認する医科歯科連携」と題して開催させていただきます。医科歯科連携が大切と言われ続けておりますが、お互いの事情を良く知ることが先決で今後の医科歯科連携を進めてゆくキーになると考えております。今回のセミナーでは医科の側からご講演をいただき、関連した歯科から考え方、対策などのご講演をいただきお互いの診療分野への理解に繋がることができるようなセミナー形式を企画しました。

はじめに、国際医療福祉大学医学部循環器内科の田村雄一先生より歯科治療時に多く遭遇する高血圧症について、歯科診療時の注意、緊急時の管理についてご講演をいただきます。続いて北海道大学大学院歯学研究院口腔病態学分野歯科麻酔学教室の城戸幹太先生より歯科の立場としての循環器疾患への注意、偶発症発症時の初期対応などについて解説していただきます。次に、東京医科歯科大学大学院医歯学総合研究科感染症健康危機管理学分野の関谷紀貴先生より平時からの感染症対策や抗菌薬の適正使用などについてお話を伺います。対して兵庫医科大学医学部歯科口腔外科学講座の野口一馬先生より歯科における抗菌薬の使用について、特にMRONJを例にとり抗菌薬の使用、外科介入などについて示していただきます。次いでがん・感染症センター都立駒込病院血液内科の土岐典子先生より造血幹細胞移植時の歯科との連携、また長期生存患者の増加に伴う慢性GVHDと口腔がんをはじめとする2次性がんについて示していただきます。最後に、がん・感染症センター都立駒込病院看護部の池上由美子先生より、歯科衛生士として造血幹細胞移植患者に対して口腔衛生管理を通して多職種連携の構築やかかりつけ歯科などの医療連携についてお話ししていただきます。

今回は、日々の臨床で少し判断に迷う事例の解決となるような内容を選択させていただきました。Webを主にセミナー会場にもいらしていただく様な開催とさせていただきました。より多くの歯科医療者の知識、診療の均てん化になれば幸いです。

おわりに、本セミナー開催にあたりご尽力を賜りました、坂下英明理事長、矢郷 香学術委員長をはじめ委員会の先生方、関係者各位、講演依頼を快諾していただいた講師の先生方に厚く御礼申し上げます。

歯科治療を受ける 患者さんに合併する 循環器疾患の管理の実際



国際医療福祉大学医学部循環器内科学 教授
国際医療福祉大学三田病院心臓血管センター 教授

田 村 雄 一

高血圧症は、全身の健康状態に深刻な影響を及ぼす慢性疾患であり、その管理は歯科医療分野においても不可欠です。本講演では、実地歯科診療を行う先生方やスタッフに向けて高血圧症を含めた循環器疾患のレビューを行い、薬物療法の具体例について焦点を当てます。

高血圧症の基準、最新の分類、および発症リスク因子に関する内容に加えて、特に薬物療法の選択肢について詳しく解説します。治療薬として、カルシウムチャネルブロッカー（例：アムロジピン、ニフェジピン）・アンジオテンシン変換酵素（ACE）阻害薬（例：エナラプリル、リシノプリル）・アンジオテンシン受容体ブロッカー（ARB）（例：ロサルタン、アジルサルタン）利尿薬（例：ヒドロクロロチアジド、フロセミド）などがこれまで使用されてきましたが、最近は新たな機序の降圧剤の選択肢も増えています。

各薬剤の適応、副作用についても詳細に紹介し、患者の個別の健康状態や他の臓器障害の有無を考慮した薬剤の選択についても触れます。

また歯科治療時における薬物療法管理上の注意についても解説し、緊急時の高血圧管理についても紹介したいと思います。

心不全に関しては左心不全・右心不全を起こす疾患や、心不全パンドミックと呼ばれる高齢者における心不全患者の増加の影響と背景因子に関しても紹介し、昨今の治療トレンドについても紹介する予定です。

Profile

田村 雄一（たむら ゆういち） Yuichi Tamura, MD, PhD

国際医療福祉大学 医学部 循環器内科学 教授

国際医療福祉大学三田病院 肺高血圧症センター 代表

【略歴要旨】

平成16年慶應義塾大学医学部卒業。慶應義塾大学病院・フランス：パリ大学国立肺高血圧症センターを経て現職。専門は肺高血圧症・腫瘍循環器学・デジタルヘルス。本邦の肺高血圧症レジストリ Japan PH Registry の研究代表者および世界のガイドライン策定のための World Symposia on Pulmonary Hypertension Association の Board Member を務め、日本発のワールドデータのエビデンスを世界に発信している。また日本循環器学会の次期肺高血圧治療ガイドライン作成班 班長を務める。

デジタルヘルスにも造詣が深く、厚生労働省 次世代医療機器評価指標作成事業 WG 委員やソフトウェア医療機器 (SaMD) の薬事承認検討委員会委員および内閣府委員としてデジタルヘルス医療機器の審査基準策定や規制緩和の提言を行うとともに、自らも AI 医療機器を開発するベンチャー企業 (株) カルディオインテリジェンスの CEO を務める。

【経歴】 2004年3月 : 慶應義塾大学医学部 卒業
同年4月 : 社会福祉法人三井記念病院 (臨床研修)
2010年3月 : 慶應義塾大学大学院博士課程大学院修了
2014年6月 : パリ大学国立肺高血圧症センター ポストドクトラルフェロー
2016年4月 : 国際医療福祉大学三田病院肺高血圧症センター 准教授・代表医師
2017年4月 : 国際医療福祉大学医学部 循環器内科学 兼 医学教育統括センター 准教授
2019年10月～ : (株) カルディオインテリジェンス 代表取締役 CEO
2021年1月～ : 国際医療福祉大学医学部 循環器内科学 兼 医学教育統括センター 教授 (兼任)
: 国際医療福祉大学大学院 医学研究科医学専攻 臨床医学研究分野 教授
2021年4月～ : 国際医療福祉大学大学院 保健医療学専攻 医療機器イノベーション分野 教授

【資格・専門医】

欧州心臓病学会フェロー (FESC) / 日本循環器学会専門医 / 日本内科学会総合内科専門医 /
日本心臓病学会フェロー (FJCC) / 日本医学教育学会医学教育専門家 / 日本医師会認定産業医 /
日本心臓リハビリテーション学会指導士

【所属学会】

委員・日本肺高血圧・肺循環学会 理事
・日本循環器学会 学術委員 (2025年度版 肺高血圧治療ガイドライン 班長)
・World Symposia on Pulmonary Hypertension Association : Scientific Board
・日本循環器協会 評議員 / 産官学連携委員
・日本腫瘍循環器学会 評議員 / ガイドライン作成委員 / 広報委員
・日本呼吸器学会肺循環肺損傷部会将来検討 委員
・欧州心臓病学会 肺循環・右室機能 WG 委員
・日本臨床腫瘍学会 oncocardiology ガイドライン作成委員
・日本脳卒中学会・日本循環器学会 脳卒中と循環器病克服 第二次5ヶ年計画委員
・日仏医学会 副会長
・日本臨床免疫学会 irAE 研究推進委員会 委員

【学術活動】

第6/7回 肺高血圧症ワールドシンポジウム (ニース 2018/ バルセロナ 2024) Task Force Member
2016年～2022年 : 欧州呼吸器学会誌 (European Respiratory Review) Associate Editor
2018年度～ : 厚生労働省 次世代医療機器評価指標作成事業 WG 委員
2021年～ : International Journal of Cardiology Associate Editor
2023年～ : Journal of Cardiology Associate Editor
本邦の All-Japan 肺高血圧症レジストリ “JAPAN PH Registry (JAPHR)” の研究代表者

【受賞歴】

2008年 : 第6回日本心臓財団若年研究者研究奨励賞
2009年 : 国際心臓研究学会 (ISHR) Young Investigator's Award 最優秀賞受賞
2011年 : 第15回日本心不全学会 Young Investigator's Award 受賞
2013年 : 第77回日本循環器学会 Young Investigator's Award 受賞・第38回日本心臓財団研究奨励賞受賞
2014年・2018年 : アクテリオンアカデミアブライズ受賞
2014年 : 欧州連合 (EU) / 欧州呼吸器学会 (ERS) 欧州連合マリー・キュリー フェローシップ受賞
2019年 : 日本肺高血圧・肺循環学会 八巻賞
2020年 : HONGO AI ベストアワード受賞
2022年 : Medtec イノベーション大賞受賞

【厚生労働省研究班 / AMED 研究班 : 研究代表者のみ記載】

- 平成24～25年度 : 患者会を中心とした肺高血圧症の前向き症例登録研究の開発と予後調査 (田村班)
- 平成25年度 : 成人発症型末梢性肺動脈狭窄症の全国的実態把握と効果的診断治療法の研究 (PPS 班)
- 平成28～30年度 : 疾患予後と医療の質の改善を目的とした多領域横断的な難治性肺高血圧症症例登録研究 (田村班 II)
- 平成30～令和元年度 : AMED 産学官連携を加速する肺高血圧症患者レジストリ Japan PH Registry の活用研究
- 令和2年度 : AMED 全国患者レジストリ Japan PH Registry のデータを活用し肺動脈性肺高血圧症に対する Precision Medicine を実施するためのコンセプト策定研究
- 令和2～4年度 : AMED 在宅医療での診断・早期介入を実現する隠れ心臓動脈診断人工知能の開発研究
- 令和2～4年度 : AMED 免疫チェックポイント阻害薬の安全な使用に資する irAE 心筋障害スクリーニング手法と危険因子の探索研究
- 令和3～6年度 : AMED 患者レジストリ Japan PH Registry を活用した肺動脈性肺高血圧症に対する抗 IL-6 受容体抗体適応拡大のための医師主導治験
- 令和3～5年度 : AMED 患者レジストリ Japan PH Registry を活用した肺動脈性肺高血圧症のアンメットメディカルニーズに対するエビデンス創出研究
- 令和5～7年度 : AMED 肺高血圧症患者レジストリとマルチオミックスデータベースを活用した難病デジタルツインモデルの構築

循環器疾患を有する患者の 歯科治療上の注意事項と 緊急時対応



北海道大学大学院歯学研究院口腔病態学分野歯科麻酔学教室 教授 城戸 幹 太

超高齢社会に突入した日本において、循環器系疾患を有する患者を診療する機会は増加している。8020 運動の達成率はすでに 50% を越え、残存歯数の多い高齢者が局所麻酔や口腔外科手術などの侵襲の大きい治療を受ける機会も増加している。実際、一般歯科医院で発生する全身的偶発症は局所麻酔施行時や歯科治療中にもっとも多く、また歯科治療に起因したと思われる死亡例の死因では心不全や脳血管障害などの合併症が多い。

日本歯科麻酔学会では、高血圧患者に対するアドレナリン含有歯科用局所麻酔剤使用に関するステートメントや虚血性心疾患患者に対する安全な歯科治療に関するステートメントをまとめており、その中には内科の受診状況や投薬内容、コントロール状態などを医療面接から確認し、歯科的ストレスへの耐容能から治療方針を検討することや、重症例であれば循環器内科主治医と密に連携を取り、適切な状況や時期を検討して治療を行うことなど、術前のリスク評価の重要性が示されている。局所麻酔薬の血管収縮薬による循環器疾患への影響や、抗血栓薬使用患者への対応などは治療前に十分認識しておくべき事項であり、単なる紹介状のやり取りで済ませるのではなく、歯科治療のストレスが患者の病態にどのような影響を与えるかを理解しておく必要がある。また、循環器疾患患者の歯科治療中は継続的モニタリングが原則である。血圧のみならず緊急的処置を要するような心電図変化が判断できるのが望ましい。さらに、患者によっては歯科治療のストレス軽減のために静脈内鎮静法を併用することも有用であり、我々の施設でも循環変動を避けたい症例ではよく用いている。入室時に収縮期血圧が 180mmHg 超の患者が鎮静後には 120mmHg 前後で推移することなどはよく経験する。

患者急変時には、一般歯科医院や総合病院、大学病院など施設によって、あるいは個人の技量によってその対応レベルは異なると思われるが、迅速な初期対応と基本的なアルゴリズムは身につけておきたい。特にすぐに応援が得られない環境の場合は、偶発症の進行を阻止して重症化を予防し、万が一心停止が発生した場合には速やかに効果的な CPR を実施できるよう体制を整えておく必要がある。

本講演では、主な循環器疾患を有する患者の歯科治療上の注意点と偶発症発生時の初期対応を中心に概説したい。

Profile

城戸 幹太 (きど かんた)

北海道大学大学院歯学研究院口腔病態学分野歯科麻酔学教室

[略 歴]

- 1995 年 東北大学歯学部卒業
- 1999 年 東北大学大学院歯学研究科博士課程修了
- 2001 年 東北大学大学院歯学研究科 生体機能制御学分野 助手
- 2009 年 米国アイオワ大学医学部麻酔学教室 博士研究員
- 2011 年 東北大学病院 歯科麻酔疼痛管理科 助教
- 2018 年 神奈川歯科大学附属病院 歯科麻酔科 講師
- 2021 年 神奈川歯科大学 歯科麻酔学分野 准教授
- 2023 年 北海道大学大学院歯学研究院口腔病態学分野歯科麻酔学教室 教授

[認定医等]

- 日本歯科麻酔学会 理事, 認定医・専門医・指導医
- 日本障害者歯科学会 認定医
- 日本蘇生学会 指導医

[所属学会]

- 日本歯科麻酔学会
- 日本障害者歯科学会
- 日本麻酔科学会
- 日本蘇生学会
- 日本疼痛学会
- 日本術後痛学会
- 日本口腔顔面痛学会
- 日本有病者歯科医療学会
- American society of Anesthesiologist
- Society for Neuroscience
- European Society of Anaesthesiology and Intensive Care

平時の感染症診療と 感染症危機管理



東京科学大学大学院医歯学総合研究科
感染症健康危機管理学分野 特任准教授

関 谷 紀 貴

歯科・医科を問わず、平時の感染症診療の在り方は、有事の感染症対応に大きく影響を及ぼしうる。今回の COVID-19 パンデミックにより、「感染症」との向き合い方に改めて焦点があてられたが、過去の歴史から今後も様々な新興・再興感染症が出現することは確実である。感染症に強い社会を目指すためには、平時の感染症診療を見直し、次なる感染症危機に備えておくことが重要である。

新興・再興感染症は毎年のように発生している。重要な新興感染症に限定しても過去 20 年間で 19 もの疾患が挙げられており (van Doorn HR., 2021)、なかでも薬剤耐性菌や呼吸器ウイルス感染症は平時の診療にも関係し得る重要な感染症である。薬剤耐性菌対策は多岐に渡るが、現場レベルで実践出来ることは抗菌薬適正使用と標準予防策を中心とした感染対策である。また、呼吸器ウイルス感染症対策は、COVID-19 対応で培った患者動線の考え方や適切な経路別予防策の実践が中心となる。本講演では、歯科外来における抗菌薬使用と AWaRe 分類、呼吸器ウイルス感染症の感染経路に関する考え方の国際的なアップデートと経路別予防策の実際について紹介したい。

次に、平時から有事への移行、つまり感染症危機の芽をいち早く捉え、必要な対策を早期から実行していくことは、感染症危機が社会に与える影響を小さくするうえで極めて重要である。今回の COVID-19 対応を踏まえて改定された「新型インフルエンザ等対策政府行動計画」では、初発の感染事例の探知能力の向上と迅速な初動の体制整備や、過去の経験を前提としない幅広い感染症危機を想定することを重視した内容となっている。当学における感染症インテリジェンス活動の試みや、感染症情報を日常の感染対策とどのように結びつけるかという点について、事例を交えつつ考えてみたい。

Profile

【略 歴】 令和 6 年 4 月 1 日現在

【氏 名】 関谷 紀貴 (せきや のりたか)

【現 職】 東京科学大学 感染症センター

東京科学大学大学院医歯学総合研究科 感染症健康危機管理学分野

東京科学大学病院 感染症内科・感染制御部

【役 職】 特任准教授

【学 歴】 平成 17 年 3 月 横浜市立大学医学部医学科 卒業

【学 位】 学士 (医学)

【免 許】 医師免許証 (医籍登録 446775 号)

【職 歴】 平成 17 年 4 月ー平成 19 年 3 月 横浜市立市民病院 初期臨床研修医

平成 19 年 4 月ー平成 22 年 3 月 東京都立駒込病院 後期臨床研修医 (感染症)

平成 22 年 4 月ー平成 24 年 3 月 国立感染症研究所

実地疫学専門家養成コース (FETP-J)

平成 22 年 11 月ー平成 23 年 1 月 世界保健機関西太平洋地域事務局 短期専門家

平成 24 年 4 月ー平成 29 年 7 月 がん・感染症センター都立駒込病院

臨床検査科医員

平成 29 年 8 月ー令和 5 年 9 月 がん・感染症センター都立駒込病院

感染制御科医長, 臨床検査科医長

令和 5 年 10 月ー現在

現職

【専門領域資格】

日本感染症学会 専門医, 指導医, インфекションコントロールドクター

日本内科学会 認定医, 総合内科専門医

日本臨床微生物学会 認定医

国際旅行医学会 Certificate in Travel Health

厚生労働省 臨床研修指導医

【所属学会】 日本内科学会, 日本感染症学会, 日本環境感染学会, 日本臨床微生物学会,
日本化学療法学会, 日本エイズ学会, 日本造血・免疫細胞療法学会, 日本結核病学会,
American College of Physicians, Infectious Diseases Society of America,
European Society of Clinical Microbiology and Infectious Diseases,
Society for Healthcare Epidemiology of America, HIV Medicine Association

【委 員 等】 平成 29 年度ー現在 日本看護協会 特定行為研修 感染管理モデル 講師

平成 30 年度ー現在 日本環境感染学会 医療環境委員会 委員

日本臨床微生物学会 感染症学 WG 委員

令和 2 年度ー現在 東京都 iCDC 院内感染対策チーム 委員

令和 3 年度ー現在 神奈川県立保健福祉大学 感染管理認定看護師教育課程 講師

令和 5 年度ー現在 日本臨床微生物学会 評議員

口腔感染症の 外科・薬物療法について ～ MRONJ 治療への対応～



兵庫医科大学医学部歯科口腔外科学講座 臨床教授 野 口 一 馬

口腔感染症は口腔レンサ球菌および嫌気性菌による嫌気性菌混合感染であり、膿の限局的な集積または膿瘍を形成する傾向がある。この嫌気性菌混合感染では血流の乏しい組織や壊死組織で見られる組織内酸素分圧が低い環境が形成されており、形成された膿瘍内は血流がなく抗菌薬は移行しないため、口腔感染症の治療では外科療法と適切な抗菌薬の選択の両方が重要となる。切開においては膿を排出するとともに無血流組織や壊死組織、感染異物は徹底的に除去するだけでなく、可能な限り血流の確保を試みる。重症化し傍咽頭隙へ波及した場合は開口障害や気道閉塞が生じ、さらに後咽頭隙へ波及すると後縦隔炎を生じ、致死的な状態へ移行することも散見されるため、CT 画像で隙を把握する必要がある。重症例への抗菌薬の選択では嫌気性菌混合感染の特徴を考慮（混合感染している菌種の一部は抗菌薬に対し耐性であっても外科的介入により他の菌種や壊死組織による嫌気性菌へのサポートがなくなる）し、 β -ラクタマーゼを産生する *Prevotella* 属などの嫌気性菌に対して β -ラクタマーゼの合成阻害作用を有する AMPC/CVA（オーグメンチン）や ABPC/SBT（ユナシン、ピシリバクタ、スルバシリン）を第一選択とする。

薬剤関連顎骨壊死（MRONJ）の外科治療においても上記の原則を踏まえて治療に臨むが、慢性炎症の急性転化のケースが多いため軟組織が癰痕化し、血流が維持されていないことに注目して治療にあたるのが重要である。そのため軟組織治癒の遷延化、抗菌薬の長期投与による耐性菌の誘導など MRONJ に特有の難しさを念頭におく。「薬剤関連顎骨壊死の病態と管理：顎骨壊死検討委員会ポジションペーパー 2023」では従来のポジションペーパーと異なり外科介入が許容された印象があり、また経験則からも外科治療の効果が保存的治療よりも良い傾向があるが、これも MRONJ 治療特有の難しさから結果として早期の外科介入が功を奏することが多いからであろう。各報告を詳細に検討すると手術の内容についてはかなりばらつきがあり、それらを解析すると分離腐骨の除去の範囲、分離腐骨周囲に存在する軟組織の取り扱い、さらに辺縁皮質骨の切除ラインの設定などに施設間の差があることがわかる。今回の講演では当科における MRONJ の外科治療の考え方をお示ししたいと考える。

Profile

野口 一馬 (のぐち かずま)
兵庫医科大学医学部歯科口腔外科学講座 臨床教授

[略 歴]

平成 4 年 3 月 31 日 福岡県立九州歯科大学 卒業
平成 4 年 6 月 1 日 兵庫医科大学歯科口腔外科学講座
研究生
平成 5 年 5 月 1 日 兵庫医科大学病院歯科口腔外科
臨床研修医
平成 6 年 5 月 1 日 兵庫医科大学歯科口腔外科学講座
研究生
平成 8 年 1 月 1 日 社会保険 星ヶ丘厚生年金病院 歯科 医員
平成 10 年 1 月 1 日 兵庫医科大学病院歯科口腔外科 医員
平成 10 年 7 月 1 日 兵庫医科大学歯科口腔外科学講座 助手
平成 17 年 4 月 1 日 兵庫医科大学歯科口腔外科学講座
学内講師
平成 19 年 4 月 1 日 兵庫医科大学 講師
平成 25 年 10 月 1 日 兵庫医科大学 准教授
平成 28 年 4 月 1 日 兵庫医科大学 研究管理責任者
(歯科口腔外科学) (Principal investigator: PI)
令和 5 年 4 月 1 日 兵庫医科大学 医学部 教授

[資 格]

平成 16 年 3 月 学位受領 (医学博士) 乙 259 号
平成 17 年度 日本医師会医療安全推進者養成講座 終了
平成 13 年 10 月 (公社) 日本口腔外科学会
口腔外科専門医 (第 1215 号)
平成 17 年 7 月 (公社) 日本口腔外科学会
口腔外科指導医 (第 883 号)
平成 22 年 4 月 (一社) 日本がん治療認定医機構
暫定教育医 (歯科口腔外科) (第 098098 号)
平成 24 年 4 月 (一社) 日本がん治療認定医機構
がん治療認定医 (歯科口腔外科)
(第 11140098 号)
平成 26 年 4 月 日本口腔感染症学会 認定医 (D70 号)
平成 26 年 10 月 日本口腔腫瘍学会 暫定指導医 (14005 号)
平成 27 年 4 月 日本口腔外科学会 代議員
平成 29 年 5 月 NPO 法人 日本口腔科学会
認定医 (3-16428 号)
平成 30 年 9 月 日本口腔腫瘍学会
口腔がん専門医 (18012 号)
令和元年 4 月 日本口腔腫瘍学会 代議員
令和元年 4 月 「Molecular Medicine Reports
(Spandidos Publishers)」 Editorial Board

[学会活動]

日本口腔外科学会・日本口腔科学会・日本癌治療学会・
日本頭頸部癌学会・日本口腔腫瘍学会・
日本口腔組織培養学会・日本口腔感染症学会など多数
平成 25 年 10 月より 日本口腔組織培養学会 理事
平成 28 年 10 月より 日本口腔外科学会 代議員
平成 29 年 3 月より 口腔外科学会および口腔腫瘍学会「口腔
がん診療ガイドライン改訂委員」
平成 30 年度より 口腔ケア学会「がん化学療法口腔ケアガ
イドライン」作成委員
平成 30 年 4 月より 日本口腔腫瘍学会 代議員
平成 30 年 10 月より 日本口腔感染症学会 理事
令和 2 年 4 月 日本口腔組織培養学会 幹事長 (常任理事)
令和 4 年 4 月 日本口腔腫瘍学会「高齢者における口腔
がん診療ガイドライン」作成委員
令和 5 年 11 月 日本口腔組織培養学会 理事長
令和 6 年 4 月 日本口腔腫瘍学会
口腔がんアルミノックス治療運営委員会委員
およびガイドライン作成委員
現 在 日本口腔組織培養学会 理事長

[賞 罰]

平成 14 年 11 月 第 46 回 日本口腔外科学会総会
優秀ポスター賞
平成 18 年 11 月 第 50 回 日本口腔外科学会総会
優秀ポスター賞
平成 27 年 5 月 第 69 回 日本口腔科学会学術集会
学会優秀ポスター賞
平成 27 年 9 月 兵庫医科大学 優秀大学院賞 (指導教官)
平成 23 年度 厚生労働省科学研究費補助金難治性疾患
克服事業
「Gorlin 症候群の病態解明と治療法確立
のための臨床的研究」研究班
平成 28 年 11 月 18 日 第 53 回 日本口腔組織培養学会学術奨励賞
論文名「ヘッジホッグシグナルと口腔疾患」
平成 30 年度 兵庫医科大学教員活動奨励賞 受賞
令和 2 年 1 月 日本口腔腫瘍学会 学会賞 (共著)
「Free Medial Sural Artery Perforator
Flap による舌半側切除症例の再建」
曾束洋平, 他

[専門的研究]

口腔がんにおける治療抵抗性因子の解析
口腔がんの発生機序に関する分子遺伝学的解析
唾液腺癌の発癌に関与する融合遺伝子の探索
Gorlin 症候群における腫瘍発生メカニズムの研究

[産業財産権]

○出願状況 (計 1 件)
名 称: 「標準化学療法不応または不耐で治療切除不能な進行
または再発癌患者の治療のための医薬」
発明者: 菊池正二郎, 篠原 尚, 笹子三津留, 三輪洋人,
岸本裕充, 野口一馬
権利者: (株) 三和化学, 学校法人兵庫医科大学
種 類: 特願
番 号: PCT/JP2018/011007
出願年: 2018 年 (2017 年 日本基礎出願)
国内外の別: PCT

○取得状況 (計 1 件)

名 称: 「標準化学療法不応または不耐で治療切除不能な進行
または再発癌患者の治療のための医薬」
発明者: 菊池正二郎, 篠原 尚, 笹子三津留, 三輪洋人,
岸本裕充, 野口一馬
権利者: (株) 三和化学, 学校法人兵庫医科大学
種 類: 特願
番 号: 107109442
取得年: 2019 年
国内外の別: 台湾

著 書: 医歯薬出版 口腔外科学 (第 4 版) 白砂・古郷編
医歯薬出版 口腔外科研修ハンドブック
公益社団法人 日本口腔外科学会編

造血幹細胞移植患者さんと 歯科の関わり ～当院の現状をふまえて～

がん・感染症センター都立駒込病院血液内科 部長 土 岐 典 子

造血幹細胞移植前処置に使用する抗がん剤や免疫抑制剤・抗菌剤などの様々な新規薬剤の登場に伴って、比較的高齢者（65歳以上）にも安全に造血幹細胞移植医療が提供できるようになってきている。またドナーソースの拡大により、血液疾患の診断から、早期に同種移植を計画し、実施できる症例が増加している。移植医療の成功には、専門的な知識をもった多職種医療者が携わり、議論することで、充実した医療としていくことが必要である。

当院では1986年同種造血幹細胞移植を開始当初から、歯科との連携を行い、移植前後の密な治療介入・フォローを頂いている。特に直近の5年は、年間120件以上の同種移植を施行しており、移植前・中・後の口腔粘膜傷害や合併症を最小限にするために、歯科との強固でスムーズな連携が出来ている。下記のような順で、診療を行っている。

1. 移植前の歯科受診により、移植前の抜歯を含めた歯科治療の必要性の有無の診断・歯科衛生士による口腔ケア指導を早めに開始している。移植までの日数を確保し、口腔内の細菌数を減少するように試み、患者指導を行う。
2. 観血的な処置の場合は詳細に議論し、輸血や入院の検討を行う。
3. 移植の日時・前処置が決定した時点で、詳細に口腔ケアを計画、歯科衛生士と看護師が連携し、詳細な計画に基づいて患者指導を行う。
4. 前処置開始後は、ほぼ毎日往診で、病棟看護師と歯科医・歯科衛生士との間で口腔ケアカンファレンスを行い、介入方法を検討する。疼痛管理も含めて、個々の症例について口腔ケア方法を工夫する。
5. 生着後の口腔ケア、移植片対宿主病（GVHD）の発現に注意しながら、指導する。
6. 退院後には、血液内科の外来以外に、定期的に歯科外来にも診て頂き、歯科衛生士の指導・歯科医のチェックを継続する。
7. 粘膜傷害が改善し、GVHDがない場合も、二次発がんの可能性を、歯科・移植後長期フォローアップ外来で指導し、セルフチェックの指導、可能な限り1年に1度は、歯科外来でフォロー頂いている。

移植医療をより安全に施行できるようになり、非再発死亡が減少したことで、長期生存者が増えている。このため、世界的にも最近大きく取り上げられているのが、慢性GVHDと二次発がん（口腔がんも含めて）である。口腔領域を含めた慢性GVHDと二次発がんの当院の取り組み・実績・非再発死亡を減らすための試みを提示させて頂き、参加者の皆様との議論をさせて頂きたい。

Profile

土岐 典子（どき のりこ）

がん・感染症センター都立駒込病院 血液内科部長

[略 歴]

平成 9 年 3 月	旭川医科大学医学部医学科卒業，医師免許取得
平成 9 年 4 月	群馬大学医学部附属病院血液内科入局 以降済生会前橋病院，深谷赤十字病院など群馬県近郊に勤務
平成 18 年 4 月	東京大学医科学研究所細胞療法分野（北村俊雄教授研究室） 大学院生，Postdoctoral fellow として勤務
平成 23 年 11 月	がん・感染症センター都立駒込病院 血液内科 医員
平成 29 年 8 月	がん・感染症センター都立駒込病院 血液内科 医長
令和 3 年 10 月	がん・感染症センター都立駒込病院 血液内科 部長

[資格・医師免許証]

博士（医学）
日本内科学会認定医，総合内科専門医，指導医
日本血液学会専門医，指導医，評議員
日本造血・免疫細胞療法学会認定医，評議員
米国血液学会員

[受賞歴]

日本血液学会総会学会奨励賞（平成 20 年）

[学会委員]

- ・日本血液学会 広報ワーキング委員
- ・日本造血・免疫細胞療法学会 認定・専門医制度委員
- ・日本造血・免疫細胞療法学会 造血幹細胞移植患者手帳作成委員
- ・日本造血・免疫細胞療法学会 ドナー委員

造血・免疫細胞療法における口腔健康管理 ～移植プロトコルから口腔粘膜障害の リスクを予測し予防に活かすには～



がん・感染症センター都立駒込病院看護部 主任歯科衛生士 池 上 由美子

造血・免疫細胞療法においては、口腔有害事象は頻発し、特に移植初期における口腔からの感染は口腔局所の疼痛悪化にとどまらず全身への感染の波及から菌血症や敗血症に至ることもあり、患者の全身状態悪化と密接に関連する。

しかし、周術期等口腔機能管理として血液内科疾患患者への治療も保険収載されてからは、多くの施設等で造血・免疫細胞療法患者への口腔の支持サポートが行われ始めた。

特に、造血・免疫細胞療法では、チーム医療が推奨されており、口腔からの感染がなくスムーズに移植が実施できるように、歯科医師による口腔機能管理と同時に歯科衛生士による専門的な口腔健康管理、さらに看護師による継続的な口腔ケア、管理栄養士による食支援なども実施されてきている。

当院における造血・免疫細胞療法でも、多職種によるチーム医療の連携によって移植医療が行われている。移植医療には関わっている診療科は、血液内科、輸血科、腫瘍内科、呼吸器内科、消化器内科、循環器内科、耳鼻咽喉科、放射線科、歯科口腔外科など多岐に及んでいる。移植医療は、これらの多くの専門医とのコンサルテーションの実施と認定や専門など高度な知識を有するコメディカルによるサポートと連携によるトータルケアシステムによって構築されている。

今回の講演では、がん・感染症センター都立駒込病院歯科口腔外科の口腔ケアチームで実施されている造血・免疫細胞療法患者へのプロトコルに基づいた口腔健康管理を移植前後から移植後長期フォローアップ（long-term follow-up : LTFU）まで口腔粘膜障害のリスクを予測し予防に活かすにはどのように取り組んでいるか、その実際について症例を提示し紹介する。

さらに、血液内科との連携フロー、口腔ケアチームによる移植病棟への往診、口腔粘膜障害への粘膜保護剤の効果的な使用方法、移植コーディネーター、LTFU 外来の看護師との連携、移植後2次がん患者（口腔癌発症）へのサポート、かかりつけ歯科医療機関との連携についても併せてお話しする予定である。

Profile

池上 由美子（いけがみ ゆみこ）

地方独立行政法人 東京都立病院機構 がん・感染症センター都立駒込病院看護部 主任歯科衛生士

〔履 歴〕

北原学院歯科衛生士専門学校卒業 歯科衛生士免許取得
放送大学教養学部卒業 学士（教養）取得
首都大学東京大学院 人間健康科学研究科 フロンティアヘルスサイエンス学域
臨床神経科学分野 修士課程卒業 修士（健康科学）取得
首都大学東京大学院 人間健康科学研究科 フロンティアヘルスサイエンス学域
臨床神経科学分野 博士課程満期修了
愛知学院大学大学院歯学研究科卒業 博士（歯学）取得

〔職 歴〕

東京都病院経営本部都立松沢病院 看護部歯科に入都
2002年～ 地方独立行政法人東京都立病院機構がん・感染症センター都立駒込病院

〔学術・学会活動〕

日本障害者歯科学会会員（代議員 認定歯科衛生士 指導者認定歯科衛生士）
日本歯科衛生士会会員（病院委員）
日本口腔ケア学会会員（常務理事 歯科衛生士部会委員長 口腔ケア認定士）
日本有病者歯科医療学会会員（認定歯科衛生士）
日本歯科衛生士会（認定歯科衛生士 研修指導者・臨床実地指導者）
厚生労働省 緩和ケア及び精神腫瘍学指導者修了書
日本造血幹細胞移植学会会員 日本口腔外科学会会員 日本口腔腫瘍学会会員

〔論文等〕

- 日本口腔ケア学会誌：16.1 2022.1
1. 歯科衛生士が新型コロナウイルス（COVID-19）感染症が疑われる患者に口腔ケアを行う際の注意事項について
第1報－感染拡大に向けて歯科衛生士にできる緊急感染管理対策－
 2. 歯科衛生士が新型コロナウイルス（COVID-19）感染症が疑われる患者に口腔ケアを行う際の注意事項について
第2報－医療機関における院内感染、クラスター発生に備えての感染予防対策－
 3. 歯科衛生士が新型コロナウイルス（COVID-19）感染症が疑われる患者に口腔ケアを行う際の注意事項について
第3報－ウィズコロナへの新しい視点での感染管理を目指す－
 4. American Journal of Hospice & Palliative Medicine 38 (7) : 794-799
Nobuyuhisa Nakajima Yumiko Ikegami Madoka Funahara
Challenges of Dental Hygienists in a Multidisciplinary Team Approach During Palliative Care for Patients With Advanced Cancer
 5. 日本口腔ケア学会雑誌 16 (2) : 20-29
Yumiko Ikegami Nagato Natsume Noboru Koike Nobuo Motegi Hisashi Sakamaki Kazuteru Ohashi
Yoshiki Okuyama Junko Akashi Masanobu Kinoshita
Monitoring engraftment after HSCT with oral visual inspection and XY-FISH on oral mucosal epithelial cell
 6. 日本口腔ケア学会雑誌 3 (1) : 48-51
茂木伸夫 池上由美子
造血細胞移植患者に対する口腔ケアと食事の工夫
 7. 日本口腔ケア学会雑誌 4 (1) : 40-4
茂木伸夫 池上由美子 田原真由美 秋山秀樹 坂巻壽
口腔ケアを行なった造血幹細胞移植患者の移植前後の口内痛と口腔に関する評価
 8. 日本口腔ケア学会雑誌 1 (1) : 14-20
茂木伸夫 池上由美子 成田香織 皆川広子 辻 正徳 山下卓也
大橋一輝 秋山秀樹 坂巻壽
造血幹細胞移植患者への口腔ケアが在院日数に及ぼす効果

第14回 学術教育セミナー プログラム・抄録集

2024 年 10 月 20 日

一般社団法人 日本有病者歯科医療学会 事務局
〒115-0055 東京都北区赤羽西 6-31-5 (株)学術社内
TEL：03-5924-3621 FAX：03-5924-4388

※無断転載，複製を禁止します

一般社団法人 日本有病者歯科医療学会

第14回学術教育セミナー

ご協賛企業

イーエヌ大塚製薬株式会社

株式会社ライフ

日本歯科薬品株式会社

Meiji Seika ファルマ株式会社

ワシエスメディカル株式会社

50 音順

NEW



お口の汚れを 軟化させて からめとる。

無香料

+

薬用

・GK^{※1} [抗炎症成分]

・CPC^{※2} [殺菌成分]

新登場!



口腔ケア用ジェル

お口を OKUCHI WO 洗うジェル AZ

うるおい成分

・アズレン^{※3}
・ヒアルロン酸Na^{※4}
配合

医薬部外品 [内容量：希望小売価格(税別)] 80g:1,700円/25g:770円

※1:グリチルリチン酸ジカリウム ※2:塩化セチルピリジニウム ※3:グアイアズレンスルホン酸ナトリウム ※4:ヒアルロン酸ナトリウム(2)



日本歯科薬品株式会社

本社 山口県下関市竹崎町4-7-24 〒750-0025・営業所 大阪・東京・福岡
お問合せ・資料請求《お客様窓口》☎0120-8020-96

NISHIKAホームページ <https://www.nishika.co.jp/>▶▶▶





Healthcare for the Next Stage



ワシエスメディカル株式会社

〒113-0033 東京都文京区本郷 2-31-8
03-3815-7671 (代表)
<https://www.washiesu.com/>